



大学生のキャリア形成支援の現場から

第2回 悪い情報提供が良い結果をもたらす？

本庄 麻美子

街でリクルートスーツ姿の学生を多く見かける季節となりました。先日、リクルートワークス研究所から2017年3月卒業予定の大卒求人倍率は1.74倍と発表され、次年度も引き続き学生の売り手市場になることが予想されています。

例年この時期になると、企業の採用担当者である卒業生たちがよく連絡をくれます。そして、ぼやいているのです。「人が集まらなくて本当に困っている…このまま採用ができないかも知れない」「『御社が第一志望です』という学生の言葉に幾度裏切られたことか…」などなど。ここ数年は、採用活動時期が何度も変更され、現場では苦勞が多いようです。このように、母集団形成の課題や内定辞退の問題等、採用する側にとって悩みが尽きない活動もあります。そのような状況下では、学生に良いイメージをもってもらおうと企業は努力し、「悪い情報は積極的にはなかなか言えない、というのが本音」という声も心情として理解ができます。

しかし、アメリカの研究では、良い情報も悪い情報も実態をリアルに求職者に提供することで、

新入社員の定着率を高める効果があるといわれています。これはRJP（Realistic Job Preview）という採用手法です。リアリティに基づく採用とも呼ばれます。学生も「悪い情報も偽りなく伝えてもらえると、誠実に対応してもらっているなど感じる」といいます。私も学生に対して、悪い情報も理解した上で進路決定をするようアドバイスをしています。OBOG訪問を推奨し、卒業生を積極的に紹介しているのはそのためです。

「若者雇用促進法」が昨年10月から順次施行されているのをご存知ですか？3月からは、就職活動中の学生が、離職率や平均勤続年数・残業時間や有休休暇の取得状況・教育研修の有無等の情報公開を求めた場合、その対応を義務化されています。また、ハローワークは、労働関係法令違反企業の新卒求人申し込みを受理しないことができます。採用側に幅広く情報開示をしてもらうことで、ミスマッチを軽減し、早期離職を防ぐ効果が期待されているのです。

(ほんじょう・まみこ / 和歌山大学経済学部助教)

第82回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

非正規雇用と労働法

話題提供者 植村 ^{あらた}新 (和歌山大学 経済学部 講師)

日時

2016年5月18日 水 19:00～20:30

場所

岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

昨今のパートタイム労働法・労働契約法・労働者派遣法の改正や、いわゆる同一労働同一賃金法の成立の背景と、その解決の取り組みについて、分かりやすくお話しします。

わだい浪切サロンとは？

毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。申込み不要、参加費無料。

お問合せ先：和歌山大学岸和田サテライトオフィス 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F

TEL & FAX：072-433-0875

岸和田サテライト 検索